

CA Agile Vision™

Agile Vision 統合ガイド

Winter 2011

このドキュメント(組み込みヘルプ システムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複製することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2011 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

Agile Vision のサポート

CA Agile Vision のお客様は、以下のタイプのサポートをご利用いただけます。

CA Agile Vision Team Edition サポート

ユーザの便宜を図るために、CA では自己管理型の [CA ユーザコミュニティ](#) オンラインフォーラムを提供しています。ここで、CA Agile Vision に関する情報へのアクセス、質問、他のユーザとの使用経験の共有ができます。

電子メールまたは電話でのサポートはご利用できません。コミュニティフォーラムで報告される問題が CA サポートによってモニタされているという保証はありません。

CA 製品のドキュメントに関してコメントまたは質問がある場合は、CA ユーザコミュニティ オンラインフォーラムで質問やフィードバックを送ることができます。

CA Agile Vision Enterprise Edition サポート

本製品を便利にお使いいただくために、CA Technologies ではユーザがホームオフィス、スモール ビジネスおよびエンタープライズ製品に関して必要な情報にアクセスできるサイトを用意しています。<http://www.ca.com/jp/support> では、以下の情報にアクセスできます。

- 技術的サポートおよび顧客サービスを受けるためのオンラインおよび電話の連絡先情報
- ユーザコミュニティとフォーラムに関する情報
- 製品とマニュアルのダウンロード
- CA サポートのポリシーとガイドライン
- お使いの製品に関するその他の有用な資料

フィードバック

CA 製品のマニュアルについてのコメントや質問がある場合は、techpubs@ca.com にメッセージをお送りください。

CA 製品のマニュアルについてのフィードバックについては、[Customer Survey](#) に必要な情報を入力してください。これは、CA のサポート Web サイト (<http://ca.com/docs>) からアクセスできます。CA Agile Vision Enterprise Edition をお使いのお客様は、すべてのテクニカル サポートをご利用いただけます。詳細については、[CA テクニカル サポート](#)までお問合せください。

目次

第 1 章: 概要	7
サードパーティ統合について	7
CA Clarity PPM と Agile Vision の統合	8
第 2 章: CA Clarity PPM と Agile Vision の統合	9
CA Clarity PPM と Agile Vision を統合する方法	9
CA Clarity Agile Enterprise アドインの CA Clarity PPM へのインストール	10
Agile Vision にアクセスするための URL の変更	11
CA Clarity PPM を Agile Vision 用に設定	12
CA Clarity PPM プロジェクトの Agile Vision への関連付け	13
Agile Vision と CA Clarity PPM 間のデータ転送をセットアップする方法	14
Agile Vision プロジェクトの統合ステータスの確認	19
プロジェクトのマッピング	20
リソースのマッピング	21
タスクのマッピング	22
タスク作業ログのマッピング	23
タスクタイプの請求コードへのマッピング	24
第 3 章: ジョブ管理	27
ジョブ サマリ	27
Agile Vision プロジェクト同期ジョブの詳細	28
Agile Vision タイムシート同期ジョブの詳細	29
第 4 章: JIRA と Agile Vision の統合	31
JIRA と Agile Vision の統合方法	31
Agile Vision プラグインの JIRA へのインストール	32
JIRA 用の [Agile Vision 設定] の設定	33
Agile Vision 問題同期サービス スケジュールの設定	34
Agile Vision 問題同期サービスの即時実行	35
Agile Vision リスナの設定	36
JIRA プロジェクトの Agile Vision 製品へのマップ	37

JIRA 属性の Agile Vision 属性へのマップ	38
JIRA 属性値の Agile Vision 属性値へのマップ	40
Agile Vision の問題インポート条件の設定	42
JIRA および Agile Vision 間の問題の同期	43
JIRA と Agile Vision 間の問題の同期	44
JIRA の Agile Vision との統合の無効化	45
第 5 章: Quality Center と Agile Vision の統合	47
Quality Center と Agile Vision の統合方法	47
Quality Center プラグインのセットアップの前提条件	47
Quality Center プラグイン パッケージのインストール	48
Agile Vision 用の Quality Center プラグインの設定	48
スケジュールされた Windows タスクとして実行するプラグインの設定	51
Quality Center プラグインのサンプル設定ファイル	53
Quality Center テストケースの Agile Vision への統合	54
付録 A: サードパーティライセンス契約	55
Dojo Toolkit 1.3.1	56
Ext JS - JavaScript Library	57
JSON 1.0	58
jquery 1.3.2	59

第 1 章：概要

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[サードパーティ統合について \(P. 7\)](#)

[CA Clarity PPM と Agile Vision の統合 \(P. 8\)](#)

サードパーティ統合について

Agile Vision を設定して、以下のサードパーティと統合できます。

- CA Clarity PPM。従来のプロジェクト管理プロセスに準じる一方で、Agile 環境で要件を作成および管理できます。
- JIRA。ユーザストーリーおよび問題を一箇所から管理します。各ユーザストーリーの問題に関するバックログおよびレポートで、問題を追跡します。
- HP Quality Center (Quality Center)。各ユーザストーリーから製品品質を直接追跡します。

CA Clarity PPM と Agile Vision の統合

Agile Vision では、CA Clarity PPM v12.0.6 と v12.1.0 プロジェクトを統合できます。Agile Vision Enterprise Edition ライセンスが必要です。この統合を使用して、製品オーナーは、従来のプロジェクト管理プロセスに準じる一方、Agile 環境で要件を作成および管理できます。

Agile Vision と CA Clarity PPM の統合には、以下の機能が含まれます。

- CA Clarity PPM から Agile 製品およびユーザを作成および管理する。
- Agile のスプリント、ユーザ ストーリー、およびタスクから CA Clarity PPM の作業明細構造を作成する。
- Agile Vision タスク作業ログを使用して、CA Clarity PPM タイムシートに自動入力する。
- 事前定義された間隔でバックグラウンドで実行され、Agile Vision と CA Clarity PPM の間で情報を転送する、同期ジョブが利用できます。

統合の前提条件

CA Clarity PPM と Agile Vision を統合するには、以下が必要です。

- CA Clarity Agile Enterprise アドインが CA Clarity PPM v12.0.6 または v12.1.0 にインストールされている。
- Agile Vision Enterprise Edition ライセンス。

同期ジョブ

事前定義された間隔でバックグラウンドで実行され、CA Clarity PPM と Agile Vision の間で情報を転送する、以下の同期ジョブが CA Clarity PPM で利用できます。

- Agile Vision プロジェクト同期ジョブ。このジョブはプロジェクトとリソースの情報を CA Clarity PPM から Agile Vision に同期します。また、このジョブは、Agile Vision のユーザ スプリント、ユーザ ストーリー、およびタスクを使用して、CA Clarity PPM 内にプロジェクト ブレークダウン ストラクチャを作成します。
- Agile Vision タイムシートの同期ジョブ。このジョブは Agile Vision のタスク作業ログを使用して、CA Clarity PPM の対応するリソースのタイムシートに自動入力します。

第 2 章: CA Clarity PPM と Agile Vision の統合

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Clarity PPM と Agile Vision を統合する方法](#) (P. 9)

[プロジェクトのマッピング](#) (P. 20)

[リソースのマッピング](#) (P. 21)

[タスクのマッピング](#) (P. 22)

[タスク作業ログのマッピング](#) (P. 23)

[タスクタイプの請求コードへのマッピング](#) (P. 24)

[ジョブ管理](#) (P. 27)

CA Clarity PPM と Agile Vision を統合する方法

Agile Vision と CA Clarity PPM 間でデータを共有するには、以下の手順に従います。

管理者:

- [CA Clarity Agile Enterprise アドインをインストールします](#) (P. 10)。
- [CA Clarity PPM を Agile Vision 用に設定します](#) (P. 12)。

プロジェクト マネージャ:

- [CA Clarity PPM プロジェクトを Agile Vision に関連付けます](#) (P. 13)。
- [Agile Vision と CA Clarity PPM 間のデータ転送を設定します](#)。(P. 14)
- [CA Clarity PPM で Agile Vision の統合ステータスを確認します](#) (P. 19)。

CA Clarity Agile Enterprise アドインの CA Clarity PPM へのインストール

CA Clarity Agile Enterprise アドインの CA Clarity PPM へのインストール方法

1. support.ca.com から利用可能な GEN01104325M.zip ファイルをダウンロードし解凍します。
2. 以下の URL から wsc_java15.jar ファイルをダウンロードします。
http://sfdc-wsc.googlecode.com/files/wsc_java15.jar
3. インストールプロセスを完了する予定の CA Clarity アプリケーション サーバ上の <Clarity インストール ディレクトリ>/runtime/lib ディレクトリに wsc_java15.jar ファイルをコピーします。
4. CA Clarity アプリケーション サーバ上の <Clarity インストール ディレクトリ>/runtime/lib ディレクトリに avee.1.1.0.0051.jar ファイルをコピーします。
.jar ファイルには次のファイルが含まれます。

install.sh

Unix インストール スクリプト。

install.bat

Windows インストール スクリプト。

install.xml

Ant インストール スクリプト。

package

更新されたファイルのディレクトリ。

tools

サポートファイルのディレクトリ。

Agile Vision にアクセスするための URL の変更

CA Clarity Agile Enterprise アドインのインストール後、バックグラウンド サービスを開始する前に、CA Clarity PPM が Salesforce.com へのアクセスに使用する URL を編集して、代わりに Agile Vision のテスト環境にアクセスさせることができます。

Agile Vision にアクセスするために URL を変更する方法

1. 一時ディレクトリを作成します (例: C:¥clarity_temp)。
2. CA Clarity PPM のインストール ディレクトリ下の lib ディレクトリにある aveesetting.jar ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
3. aveesetting.jar ファイルを以下のコマンドでアンパックします。
`jar -xvf aveesetting.jar`
4. avee.properties ファイルを編集して、既定の URL を変更します。変更前の URL:
`avee.endpoint=https://login.salesforce.com/services/Soap/u/18.0`
変更後の URL:
`avee.endpoint=https://test.salesforce.com/services/Soap/u/18.0`
5. .properties ファイルを保存します。
6. jar ファイルを以下のコマンドで再作成します。
`jar cvf aveesetting.jar avee.properties`
7. aveesetting.jar ファイルを、CA Clarity PPM のインストール ディレクトリ下の lib ディレクトリにコピーします。
8. 一時ディレクトリ (c:¥clarity_temp) を削除します。
9. CA Clarity アプリケーションおよび CA Clarity バックグラウンド サービスを起動します。

CA Clarity PPM を Agile Vision 用に設定

以下の手順では、CA Clarity PPM と Agile Vision をリンクさせるための設定方法を説明します。

CA Clarity PPM を Agile Vision 用に設定する方法

1. CA Clarity PPM にログインし、[管理ツール]にアクセスします。
2. [一般設定]メニューから[Agile Vision セットアップ]を選択します。

Agile Vision の管理設定ページが表示されます。

3. 以下のフィールドに入力し、[保存]をクリックします。

ユーザ名

システム管理者の権限で Agile Vision にログインするためのユーザ名を定義します。

パスワード

システム管理者の権限で Agile Vision にログインするためのパスワードを定義します。

セキュリティトークン

ログインが失敗した場合、または信頼されていないネットワークから CA Clarity PPM サーバを実行している場合に、サーバの識別に使用するセキュリティトークンを定義します。このトークンは、SalesForce.com の [Personal Setup] ページから取得できます。詳細については、SalesForce.com のオンライン ヘルプを参照してください。

プロキシ ホスト名

プロキシ サーバのホスト名を定義します。

プロキシ ポート

プロキシ サーバのポートを定義します。

プロキシ ユーザ名

プロキシ サーバのユーザ名を定義します。

プロキシ パスワード

プロキシ サーバのパスワードを定義します。

CA Clarity PPM プロジェクトの Agile Vision への関連付け

CA Clarity PPM と Agile Vision 間で情報を共有するには、CA Clarity PPM のプロジェクトを Agile Vision に関連付ける必要があります。関連付けを完了すると、CA Clarity PPM 内で Agile Vision のサブページを利用できるようになります。ここでは、Agile Vision プロジェクトの詳細を指定できます。

後でこの CA Clarity PPM プロジェクトを削除した場合、別のプロジェクトを同じ Agile Vision リリースにリンクすることはできません。ユーザは、新しい CA Clarity PPM プロジェクトを別の Agile Vision リリースにリンクし、ユーザ ストーリーとタスクを、この新たにリンクしたリリースに移動することができます。

CA Clarity PPM プロジェクトを Agile Vision にリンクする方法

1. CA Clarity PPM にログインします。
2. [ポートフォリオ管理]メニューから[プロジェクト]を選択します。
プロジェクトリスト ページが表示されます。
3. 既存のプロジェクトを開くか、または[新規]をクリックして、プロジェクトを作成します。
プロジェクトのプロパティ ページまたは作成ページが表示されます。
4. [保存]をクリックします。
5. [Agile Vision にリンク済み]チェック ボックスをオンにします。

Agile Vision と CA Clarity PPM 間のデータ転送をセットアップする方法

Agile Vision と CA Clarity PPM 間のデータ転送をセットアップするには、Agile Vision と関連付ける CA Clarity PPM プロジェクトで Agile Vision プロジェクトの詳細を指定します。以下のいずれかを実行します。

- [CA Clarity PPM から Agile Vision プロジェクトまたはリリースを作成します \(P. 15\)](#)。
- [CA Clarity PPM から既存の Agile Vision プロジェクトおよびリリースにリンクします \(P. 16\)](#)。
- [CA Clarity PPM から既存の Agile Vision プロジェクト内に Agile Vision リリースを作成します \(P. 18\)](#)。

CA Clarity PPM と Agile Vision 間でプロジェクトをリンクする際は、以下のルールが適用されます。

- プロジェクト ID およびリリース名を指定し、リリース ID は空白にした場合、指定したプロジェクトの新しいリリースが Agile Vision に作成されます。
- プロジェクトと、リリース ID およびリリース名の両方を指定した場合、リリース名は無視され、リリース ID を使用して、既存の Agile Vision プロジェクトとリンクされます。
- プロジェクトまたはリリースを作成すると、CA Clarity PPM プロジェクトの説明が Agile Vision のプロジェクトまたはリリースの説明として追加されます。Agile Vision のスーパー ユーザはこの説明を変更できます。変更した説明は CA Clarity PPM によって上書きされません。
- すべてのフィールドを空白にすると、同期ジョブが失敗し、Agile Vision での新規作成またはリンクは行われません。

ベスト プラクティス: CA Clarity PPM プロジェクトを Agile Vision にリンクする場合は、以下を確認します。

- 工数タスクの自動作成のオプションがオフになっている。
- 現在、CA Clarity PPM プロジェクトにタスクが存在しない。

CA Clarity PPM から Agile Vision プロジェクトおよびリリースを作成

CA Clarity PPM プロジェクトでプロジェクト名およびリリース名を指定することにより、Agile Vision プロジェクトおよびリリースを作成します。プロジェクト ID およびリリース ID は定義しません。

CA Clarity PPM から Agile Vision プロジェクトおよびリリースを作成する方法

1. CA Clarity PPM で、Agile Vision と関連付けるプロジェクトを開きます。
プロジェクトのプロパティが表示されます。
2. コンテンツ メニューから[Agile Vision]をクリックします。
Agile Vision のプロパティ ページが表示されます。
3. 以下のフィールドに入力します。

Agile Vision プロジェクト名

作成する新しい Agile Vision プロジェクトの名前を定義します。

Agile Vision リリース名

作成する新しい Agile Vision リリースの名前を定義します。

プロジェクトプレフィクス

ユーザ ストーリーおよびタスクのプロジェクト名に追加する、一意のプレフィクスを定義します。プロジェクトの作成後に、プレフィクスを変更することはできません。

制限: 6 文字

4. 変更結果をサブミットします。

Agile Vision プロジェクト同期ジョブが実行されると、CA Clarity PPM の以下のフィールドに値が自動的に入力され、Agile Vision では新しいリリースとプロジェクトが作成されます。

Agile Vision プロジェクト ID

Agile Vision プロジェクト ID が表示されます。この値は、Agile Vision から自動的に取得されます。

ソース: Agile Vision の[プロジェクト詳細]ページの[プロジェクト ID]フィールド。

Agile Vision リリース ID

Agile Vision リリース ID が表示されます。この値は、Agile Vision から自動的に取得されます。

ソース: Agile Vision の[リリースの詳細]ページの[リリース ID]フィールド。

CA Clarity PPM から既存の Agile Vision プロジェクトおよびリリースへのリンク

CA Clarity PPM プロジェクトでプロジェクト ID およびリリース ID を指定して、既存の Agile Vision プロジェクトおよびリリースにリンクします。プロジェクト名、リリース名およびプレフィックス値は定義しません。

CA Clarity PPM から既存の Agile Vision プロジェクトおよびリリースにリンクする方法

1. CA Clarity PPM で、Agile Vision と関連付けるプロジェクトを開きます。
プロジェクトのプロパティが表示されます。
2. コンテンツ メニューから[Agile Vision]をクリックします。
Agile Vision のプロパティ ページが表示されます。
3. 以下のフィールドに入力します。

Agile Vision プロジェクト ID

Agile Vision の既存プロジェクトのプロジェクト ID を定義します。この値は、このプロジェクトを既存の Agile Vision プロジェクトにリンクするために使用されます。リンクが正常に確立されると、このフィールドは表示専用になります。

ソース: Agile Vision の[プロジェクト詳細]ページの[プロジェクト ID]フィールド。

Agile Vision リリース ID

Agile Vision の既存リリースのリリース ID を定義します。この値は、このプロジェクトを既存の Agile Vision リリースにリンクするために使用されます。リンクが正常に確立されると、このフィールドは表示専用になります。

ソース: Agile Vision の[リリースの詳細]ページの[リリース ID]フィールド。

4. 変更結果をサブミットします。

Agile Vision プロジェクト同期ジョブが実行されると、CA Clarity PPM の以下のフィールドに 値が自動的に入力されます。

Agile Vision プロジェクト名

Agile Vision のプロジェクト名が表示されます。この値は、Agile Vision から自動的に取得します。

ソース: Agile Vision の[プロジェクト詳細]ページの[プロジェクト名]フィールド。

Agile Vision リリース名

Agile Vision のリリース名が表示されます。この値は、Agile Vision から自動的に取得します。

ソース: Agile Vision の[リリースの詳細]ページの[リリース名]フィールド。

プロジェクトプレフィクス

Agile Vision プロジェクトでの、ユーザ ストーリーおよびタスクのプレフィクスが表示されます。

ソース: Agile Vision の[プロジェクト詳細]ページの[プロジェクトプレフィクス]フィールド。

既存の Agile Vision プロジェクトで Agile Vision リリースを作成

CA Clarity PPM プロジェクトで Agile Vision プロジェクト ID およびリリース名を指定し、既存の Agile Vision プロジェクトに Agile Vision リリースを作成します。リリース ID、プロジェクト名、およびプレフィックス値は定義しません。

既存の Agile Vision プロジェクトで Agile Vision リリースを作成する方法

1. CA Clarity PPM で、Agile Vision と関連付けるプロジェクトを開きます。
プロジェクトのプロパティが表示されます。
2. コンテンツメニューから[Agile Vision]をクリックします。
Agile Vision のプロパティページが表示されます。
3. 以下のフィールドに入力します。

Agile Vision プロジェクト ID

Agile Vision の既存プロジェクトのプロジェクト ID を定義します。この値は、このプロジェクトを既存の Agile Vision プロジェクトにリンクするために使用されます。リンクが正常に確立されると、このフィールドは表示専用になります。

ソース: Agile Vision の[プロジェクト詳細]ページの[プロジェクト ID]フィールド。

Agile Vision リリース名

作成する新しい Agile Vision リリースの名前を定義します。

4. 変更結果をサブミットします。

Agile Vision プロジェクト同期ジョブが実行されると、CA Clarity PPM の以下のフィールドに値が自動的に入力されます。

Agile Vision リリース ID

Agile Vision リリース ID が表示されます。この値は、Agile Vision から自動的に取得されます。

ソース: Agile Vision の[リリースの詳細]ページの[リリース ID]フィールド。

Agile Vision プロジェクト名

Agile Vision のプロジェクト名が表示されます。この値は、Agile Vision から自動的に取得します。

ソース: Agile Vision の[プロジェクト詳細]ページの[プロジェクト名]フィールド。

プロジェクトプレフィクス

Agile Vision プロジェクトでの、ユーザストーリーおよびタスクのプレフィクスが表示されます。

ソース: Agile Vision の[プロジェクト詳細]ページの[プロジェクトプレフィクス]フィールド。

Agile Vision プロジェクトの統合ステータスの確認

CA Clarity PPM プロジェクトを Agile Vision にリンク後、Agile Vision プロパティページで統合ステータスを確認します。統合が成功している場合、Agile Vision と CA Clarity PPM 間でデータが転送されます。統合が成功していない場合、以下のような原因が考えられます。

- Agile Vision 管理設定ページ上の Salesforce.com または Agile Vision の認証情報が間違っている。
- Salesforce.com ネットワークが停止している。
- 入力した Agile Vision プロジェクトまたはリリース ID が間違っている。
- 作成しようとしている Agile Vision プロジェクトがすでに存在する。
- Agile Vision リリースが、すでに別の CA Clarity PPM プロジェクトにリンクされている。

いずれかの情報の入力間違っている場合、正しい値を再入力して、Agile Vision プロジェクト同期ジョブを実行し、統合を再度試行してください。

Agile Vision 統合ステータスを確認する方法

1. CA Clarity PPM でプロジェクトを開き、コンテンツメニューから[Agile Vision]をクリックします。

Agile Vision のプロパティページが表示されます。

2. 以下のフィールドの情報を確認します。

同期ステータス

Agile Vision のプロジェクト同期ジョブのステータスを表示します。ステータスは、成功、保留、失敗のいずれかです。

同期の詳細情報

前回実行した日時などのジョブ ステータスの詳細が表示されます。ジョブが失敗した場合、発生したエラーの詳細が表示されます。

プロジェクトのマッピング

CA Clarity PPM プロジェクトを Agile Vision プロジェクトにリンクしている場合、これらのプロジェクトを Agile Vision 内から表示して作業することができます。プロジェクトのリンク後、CA Clarity PPM でプロジェクトの日付を更新すると、Agile Vision 内でリリース日が自動的に更新されます。

以下の表は、Agile Vision のプロジェクトおよびリリースのフィールドと CA Clarity PPM のプロジェクトのフィールドのマッピングの関係を示しています。

Agile Vision フィールド	CA Clarity PPM フィールド
プロジェクト名	Agile Vision プロジェクト名
プロジェクト ID	Agile Vision プロジェクト ID
リリース名	Agile Vision リリース名
リリース ID	Agile Vision リリース ID
開始日 (リリース)	開始日 (プロジェクト)
リリース日 (リリース)	終了日 (プロジェクト)

リソースのマッピング

統合された CA Clarity PPM プロジェクトのプロジェクトチームにリソースを追加すると、Salesforce.com の既存のユーザ アカウントを持たないユーザが新規アカウントとして作成され、Agile Vision ユーザとして追加されます。既存の Salesforce.com ユーザ アカウントを持つリソースは、Agile Vision ユーザとして追加され、CA Clarity PPM プロジェクトにリンクされます。

リソースに対して Salesforce.com アカウントがすでに存在するかどうかの判別には、リソースの従業員番号と電子メール アドレスが使用されます。

新規ユーザは、電子メールによる通知を受け取ります。この通知には、ユーザの電子メールアドレスの後ろに日付が付加されたものがユーザ ID として、および Salesforce.com へのログインに必要な一時パスワードが記載されています。ユーザはこの情報によりログインして Agile Vision にアクセスし、パスワードを変更します。Agile Vision ユーザであり、CA Clarity PPM プロジェクトにリンクされている一意の各 Salesforce.com アカウントに、Agile Vision Enterprise Edition のライセンスが必要です。

リソースのマッピング

以下の表には、CA Clarity PPM と Agile Vision 間のリソース フィールドのマッピング関係が示されています。

Agile Vision フィールド	CA Clarity PPM フィールド
名	名
姓	姓
電子メール アドレス	電子メール
ユーザ名	日付が追加された電子メール アドレス (例: <code>firstname.lastname@ca.com.030610</code>)

リソースの削除

リンクしたリソースが CA Clarity PPM で削除された場合、そのリソースは、Agile Vision の統合プロジェクトからも削除されます。それらのリソースは、CA Clarity PPM にリンクされたユーザ ストーリーおよびタスクに時間を記録したり、割り当てたりすることはできなくなります。これらのユーザは、Agile Vision 内で非アクティブにすることができます。

タスクのマッピング

タスクで構成されるユーザストーリーを作成し、Agile Vision リリースのスプリントに割り当てると、リンクされた CA Clarity PPM プロジェクト内にタスクが自動的に作成されます。CA Clarity PPM プロジェクトタスクのワークブレイクダウンストラクチャは、以下のように構築されます。

- 割り当てられるユーザストーリーは、スプリントごとにグループ化されます。
- 割り当てられないユーザストーリーは、未スケジュールタスクとしてグループ化されます。
- タスクは、関連付けられるユーザストーリーごとにグループ化されます。
- 問題は、スプリントまたは未スケジュールのタスクの下に、ユーザストーリーと同じレベルでグループ化されます。

タスクの更新

Agile Vision 内でタスクに加えたすべての変更は、CA Clarity PPM 内で自動的に反映されます。たとえば、タスクの担当者が変更されると、その変更は CA Clarity PPM でも反映されます。Agile Vision で見積もり時間と担当者を削除すると、CA Clarity PPM のタスクでも ETC と担当者が削除されます。

タスクの削除

Agile Vision のスプリントを削除すると、統合されたスプリントタスクが CA Clarity PPM でも削除されます。このスプリントタスクのサブタスクは、以下に従って再度グループ化されます。

- 親ユーザストーリーがスプリントに割り当てられていない場合、サブタスクは未スケジュールタスクにグループ化されます。
- 親ユーザストーリーが新しいスプリントに割り当てられている場合、サブタスクはその新しいスプリントタスクにグループ化されます。

Agile Vision で、いずれかのタスクに実績値があるユーザストーリーを削除した場合、ユーザストーリータスクおよびそのサブタスクは CA Clarity PPM の削除済みタスクグループにロールアップされます。いずれのタスクにも実績値がない場合、ユーザストーリータスクとそのサブタスクは CA Clarity PPM から削除されます。

タスクのマッピング

以下の表には、Agile Vision のスプリント、ユーザストーリー、およびタスクの情報がどのように使用されて、CA Clarity PPM ワークブレイクダウンストラクチャのフィールドおよび値として入力されるかが示されています。

Agile Vision フィールド/値	CA Clarity PPM フィールド/値
<ul style="list-style-type: none"> ■ スプリント名 ■ ユーザストーリー タイトル ■ タスク タイトル 	タスク
担当者	割り当て
予想時間	ETC (タスク担当者が存在する場合のみ、CA Clarity PPM 内で取得されます)
計画済み(タスク ステータス)	開始前(タスク ステータス)
進行中(タスク ステータス)	開始済み(タスク ステータス)
完了/クローズ(タスク ステータス)	完了(タスク ステータス)
スプリント開始/終了日	タスク開始/終了日 (タスクがスプリントに割り当てられている場合)
リリース開始/終了日	タスク開始/終了日 (タスクがスプリントに割り当てられていない場合)

タスク作業ログのマッピング

タスク作業ログまたは仮想ウォールを使用して、Agile Vision でタスクに作業時間を入力すると、CA Clarity PPM では以下の更新が行われます。

- 時間を記録するユーザが、[割り当て] ページ上で、リンクされているタスクに担当者として追加されます (CA Clarity PPM タスクに既存の担当者が存在しない場合)。
- 作業時間はタスクの実績値に追加されます。
- 作業時間と残存時間が、CA Clarity PPM 上で、関連リソースのタイムシートの該当する日付に入力されます。

作業ログのマッピング

タスクタイプの請求コードへのマッピング

以下の表には、Agile Vision タスクの作業ログ情報が CA Clarity PPM のタイムシートにどのようにマッピングされるかが示されています。

Agile Vision 作業ログ	CA Clarity PPM タイムシート
Agile ユーザ名/担当者	リソース名
作業時間	1 日単位の記録時間
残存時間	ETC(残作業時間)
作業日	タイムシート期間の日付
タスクタイプ	請求コード

作業ログの更新と削除

Agile Vision で作業ログを更新するたびに、対応する CA Clarity PPM のタイムシートが更新されます。ただし、タイムシートが提出済みステータスの場合は更新されません。

CA Clarity PPM のタイムシートで時間を取得した後に、Agile Vision の作業ログを削除することができます。現在、タイムシートが提出されていない場合は、Agile Vision での最新の更新に基づいて更新されます。タイムシートがすでに提出されている場合は、タイムシートの調整が作成されます。

タスクタイプの請求コードへのマッピング

CA Clarity PPM で請求コードをプロジェクトタスクに割り当てている場合、これらの請求コードを Agile Vision のタスクタイプにマッピングできます。タスクタイプを請求コードにマッピングすると、リンクされたタスクの実績値に適切な請求コードを割り当てることができます。

プロジェクトマネージャが、タスクタイプを請求コードにマッピングし、[Agile Vision タスクタイプの自動入力]プロセスを実行する場合、以下のグローバルアクセス権とインスタンスアクセス権が必要です。

- タスクタイプおよび請求コード マッピング - 作成
- タスクタイプおよび請求コード マッピング - すべて編集
- プロセス開始

ベストプラクティス:

- 請求コードのマッピングを誤って削除した場合、[Agile Vision タスクタイプの自動入力]プロセスを手動で実行すると、削除したマッピングを復元できます。
詳細については、「CA Clarity PPM 管理ガイド」を参照してください。
- タスクタイプは、1つの請求コードにしかマップできません。Agile Vision でタスクにタスクタイプが定義されていない場合は、CA Clarity PPM で既定の請求コードを割り当てることができます。

タスクタイプを請求コードにマップする方法

1. CA Clarity PPM で、リンクされたプロジェクトを開きます。
プロジェクトのプロパティが表示されます。
2. コンテンツメニューから[Agile Vision タスクタイプ マッピング]をクリックします。
[Agile Vision タスクタイプ マッピング]ページが表示されます。
3. [新規]をクリックします。
マッピングの作成ページが表示されます。
4. 以下のフィールドに情報を入力し、提出します。

タスクタイプ

タスクに Agile Vision のタスクタイプを定義します。

請求コード

同じタスクに CA Clarity PPM の請求コードを定義します。

第 3 章: ジョブ管理

ジョブ サマリ

CA Clarity Agile Enterprise アドインをインストールすると、CA Clarity PPM で Agile Vision のプロジェクト同期ジョブと Agile Vision のタイムシート同期ジョブが利用可能になり、アクティブになります。デフォルトでは、これらのジョブは、事前に定義された間隔(毎日午前 9 時)に自動的に実行されるようにスケジュールされています。これらのジョブの既定のスケジュールは、ユーザの組織のニーズに合うように変更できます。また、ジョブを直ちに実行して、Agile Vision から CA Clarity PPM へデータを移動できます。

CA Clarity PPM からのジョブのスケジュールおよび実行方法の詳細については、「CA Clarity PPM 管理ガイド」を参照してください。

制限

Agile Vision の同期ジョブは、以下の CA Clarity PPM ジョブと同時に実行できません。

- タイムシートのポスト
- タイム スライス付け
- アーンド バリュース合計の更新
- アーンド バリュース履歴の更新

Agile Vision プロジェクト同期ジョブの詳細

Agile Vision プロジェクト同期ジョブでは以下を同期します。

- プロジェクトとリソース (CA Clarity PPM から Agile Vision へ)
- タスク (Agile Vision から CA Clarity PPM へ)

プロジェクト同期の詳細

CA Clarity PPM では、このジョブにより Agile Vision サブページの以下のフィールドが自動入力されます。

- Agile Vision プロジェクト名
- Agile Vision リリース名

Agile Vision では、このジョブにより、リリース開始日とリリース日が、CA Clarity PPM のプロジェクト開始日/終了日で置換されます。

注: 多数のプロジェクトの内 1 つでも失敗すると、プロジェクト同期ジョブは「失敗」ステータスを報告します。「失敗」ステータスは、対処が必要なプロジェクトが少なくとも 1 つあることを管理者に通知します。このステータスは、すべてのプロジェクトが失敗したことを意味するわけではありません。対処が必要なプロジェクトとその理由を確認するには、CA Clarity PPM の同期ジョブのログ ページを参照します。

リソース同期の詳細

Agile Vision では、リソースが既存の Salesforce.com ユーザでない限り、ジョブによってユーザが作成されます。

以下のフィールドが CA Clarity PPM から取得されます。

- 名
- 姓
- 電子メール
- ユーザ名

タスク同期の詳細

CA Clarity PPM では、Agile Vision のスプリント、ユーザストーリーおよびタスクの情報を基に、プロジェクトのタスクワークブレイクダウンストラクチャの以下がジョブによって自動入力されます。

- 要約タスク
- 詳細タスク
- 未スケジュール タスク

Agile Vision タイムシート同期ジョブの詳細

Agile Vision タイムシート同期ジョブにより、Agile Vision のタスク作業ログを基に CA Clarity PPM の以下が自動入力されます。

- タスクの実績
- タイムシート上で指定された日付の、リソースの作業時間と ETC

タイムシート同期ジョブを実行するたびに、CA Clarity PPM でタイムシートに行った変更は上書きされます。ただしこれは、タイムシートのステータスがオープンである場合に限りです。

ベスト プラクティス: Agile Vision ですべての更新を行うと、次回タイムシート同期ジョブの実行時に、CA Clarity PPM タイムシートで変更が更新されます。Agile Vision タスクを CA Clarity PPM タイムシート内で更新する必要はありません。

第 4 章: JIRA と Agile Vision の統合

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [JIRA と Agile Vision の統合方法 \(P. 31\)](#)
- [Agile Vision の問題インポート条件の設定 \(P. 42\)](#)
- [JIRA および Agile Vision 間の問題の同期 \(P. 43\)](#)
- [JIRA と Agile Vision 間の問題の同期 \(P. 44\)](#)
- [JIRA の Agile Vision との統合の無効化 \(P. 45\)](#)

JIRA と Agile Vision の統合方法

Agile Vision と JIRA を統合する前に JIRA のバージョン 3.13.5 またはバージョン 4.1.2 がインストールされ実行されている必要があります。

JIRA を Agile Vision と統合するには、以下の手順を完了します。

1. [JIRA サーバ上に Agile Vision Plugin をインストール \(P. 32\)](#)
2. [JIRA を Agile Vision セットアップ用に設定 \(P. 33\)](#)
3. Agile Vision の有効化による JIRA との統合
詳細については、Agile Vision のオンライン ヘルプを参照してください
4. 以下の追加手順を完了します。
 - [Agile Vision 問題同期サービススケジュールの設定 \(P. 34\)](#)
 - [Agile Vision リスナを設定します \(P. 36\)](#)。
 - [JIRA プロジェクトの Agile Vision プロジェクトへのマップ \(P. 37\)](#)
 - [JIRA 属性の Agile Vision 属性へのマップ \(P. 38\)](#)
 - [JIRA 属性値の Agile Vision 属性値へのマップ \(P. 40\)](#)

Agile Vision プラグインの JIRA へのインストール

<JIRA インストール ディレクトリ>/atlassian-jira/WEB-INF/lib ディレクトリ内に ca-agile-jira-integration-1.0.jar ファイルが存在する場合は、JIRA サーバを起動する前にこのファイルを削除します。

Agile Vision プラグインの JIRA へのインストール方法

1. support.ca.com から利用可能な GEN01104808M.zip ファイルをダウンロードし解凍します。
2. 以下の URL から wsc_java15.jar ファイルをダウンロードします。
http://sfdc-wsc.googlecode.com/files/wsc_java15.jar
3. JIRA サーバ上の <JIRA インストール ディレクトリ>/atlassian-jira/WEB-INF/lib ディレクトリに wsc_java15.jar ファイルをコピーします。
4. プラグイン ca-agile-jira-integration-1.1.jar を <JIRA インストール ディレクトリ>/atlassian-jira/WEB-INF/lib ディレクトリにコピーします。
5. JIRA を再起動します。

JIRA 用の [Agile Vision 設定] の設定

それらが相互接続するように、JIRA プラグインの Agile Vision 組織詳細を設定します。設定の保存後、Agile Vision への接続をテストします。Agile Vision 組織への接続成功またはエラーのいずれかを示すメッセージが表示されます。接続エラーは以下の理由で発生します。

- 間違った Agile Vision 認証情報
- ネットワークの問題

JIRA プラグインの設定方法

1. 管理者として JIRA へログインします。
2. [管理] をクリックします。
[管理] ページが表示されます。
3. [CA Agile Vision] メニューから [設定] をクリックします。
[CA Agile Vision の設定] ページが表示されます。
4. 以下の Agile Vision 組織の詳細を完了します。

ユーザ名

システム管理者の権限で Agile Vision にログインするためのユーザ名を定義します。

パスワード

システム管理者の権限で Agile Vision にログインするためのパスワードを定義します。

セキュリティトークン

ログインが失敗した場合、または信頼されていないネットワークから JIRA サーバが実行されている場合に、サーバの識別に使用するセキュリティトークンを定義します。このトークンは、Salesforce.com の [Personal Setup] ページから取得できます。詳細については、Salesforce.com のオンライン ヘルプを参照してください。

プロキシ サーバホスト名

プロキシ サーバのホスト名を定義します。

プロキシ サーバポート

プロキシ サーバのポートを定義します。

プロキシ サーバ ユーザ名

プロキシ サーバのユーザ名を定義します。

プロキシ サーバ パスワード

プロキシ サーバのパスワードを定義します。

5. [保存]をクリックします。

Agile Vision 問題同期サービス スケジュールの設定

JIRA 管理者として、一定の間隔で Agile Vision 問題同期サービスを実行し、Agile Vision と JIRA 間で問題を同期するように設定します。また、[同期ジョブを今すぐ実行]オプションも使用できます。ジョブ実行の進捗を表示するには、JIRA_HOME ディレクトリにある `atlassian-jira.log` ファイルを参照してください。

注: 問題同期サービス スケジュールを設定すると、同期ジョブはすぐに実行されます。また、[同期ジョブを今すぐ実行]オプションは一時的に無効になります。ジョブが完了すると、このオプションは再び有効になります。

一定の間隔で Agile Vision 問題同期サービスを実行するように設定する方法

1. JIRA で[管理]をクリックします。
[管理]ページが表示されます。
2. [システム]メニューから[サービス]をクリックします。
[サービス]リスト ページが表示されます。
3. [サービスの追加]セクションで、以下のフィールドに入力します。

名前

問題同期サービス名を定義します。

値: Agile Vision 問題同期サービス

クラス

問題同期サービス クラスを定義します。

値: `com.ca.agile.integration.jira.job.AgileVisionIssueSyncService`

遅延

各同期サービス実行時間間の遅延を分単位で定義します。推奨される間隔は 360 分です。

既定: 1 分 (サービスは毎分実行されます)

4. [サービスの追加]をクリックします。

Agile Vision 問題同期サービスの即時実行

JIRA 管理者として、Agile Vision 問題同期サービスを随時実行して、Agile Vision から更新された問題を表示できます。別のジョブ インスタンスが同時に実行されている場合、このリクエストはスキップされます。また、メッセージが JIRA_HOME ディレクトリにある `atlassian-jira.log` ファイルに表示されます。

[問題同期サービス]ページには、ジョブ ステータス(実行中、完了)、リクエストタイプおよびジョブ開始時間が表示されます。ジョブ ステータスは、随時リフレッシュできます。ジョブが失敗すると、エラー メッセージが表示されます。これらのエラー メッセージに基づいて、エラーに対処できます。エラーが発生するのは、通常 Agile Vision への接続を確立できない場合、または同期ジョブがすでに実行されている場合です。

Agile Vision 問題同期サービスを随時実行する方法

1. JIRA で[管理]をクリックします。
[管理]ページが表示されます。
2. [CA Agile Vision]メニューから[同期ステータス]をクリックします。
[CA Agile Vision 問題同期ステータス]ページが表示されます。
3. [同期ジョブを今すぐ実行]をクリックします。
4. ログファイルに移動して、ジョブの進捗を表示します。

Agile Vision リスナの設定

Agile Vision リスナを設定して、JIRA で問題が削除される場合に、それが Agile Vision から削除されることを確認します。JIRA で問題が削除されるたびに、スケジュールされたジョブがトリガされ、Agile Vision で対応する削除が行われます。

リスナを随時削除して、JIRA から Agile Vision へのすべての更新を停止できます。

Agile Vision リスナの設定方法

1. JIRA で[管理]をクリックします。
[管理]ページが表示されます。
2. [システム]メニューから[リスナ]をクリックします。
[リスナ]リスト ページが表示されます。
[リスナの追加]セクションで、以下のフィールドに入力します。

名前

Agile Vision リスナの名前を定義します。

値: Agile Vision 問題 リスナ

クラス

リスナのクラスを定義します。

値: com.ca.agile.integration.jira.listener.AgileVisionIssueListener

3. [追加]をクリックします。

JIRA プロジェクトの Agile Vision 製品へのマップ

JIRA プロジェクトを Agile Vision 製品にマップして、問題に接続し、追跡します。また、これらのマッピングを希望に応じて、どの時点でも削除できます。

JIRA で Agile Vision と同期されるプロジェクトを削除すると、Agile Vision にインポートされた関連問題はそのままですが、それ以降 JIRA と同期されなくなります。しかし、ユーザ ストーリーからそれらの問題を表示したり、それらの問題にリンクすることはできます。

問題は JIRA から削除されます。

JIRA プロジェクトを Agile Vision プロジェクトに マップする方法

1. JIRA で[管理]をクリックします。
[管理]ページが表示されます。
2. [CA Agile Vision]メニューから[プロジェクト マッピング]をクリックします。
[CA Agile Vision JIRA プロジェクト マッピング]ページが表示されます。
3. [プロジェクト マッピングの追加]セクションの以下のフィールドに値を入力します。

Agile Vision 製品

JIRA プロジェクトにマップする Agile Vision 製品を定義します。

JIRA プロジェクト

Agile Vision 製品にマップする JIRA プロジェクトを定義します。

4. [マッピングの追加]をクリックして、マッピングをリストに追加します。

JIRA 属性の Agile Vision 属性へのマップ

JIRA 属性を Agile Vision 属性にマップして、JIRA の問題と Agile Vision の問題を接続します。これらのマッピングは、希望に応じて、どの時点でも編集または削除できます。

以下の属性タイプをマップできます。

- テキスト(たとえば、タイトル)
- 無制限のテキスト(たとえば、説明)
- 数(たとえば、ポイント)
- 単一選択(たとえば、優先度)
- 複数選択(たとえば、テーマ)。

また、任意のカスタム JIRA フィールドを Agile Vision 属性にマップできます。

JIRA 属性を Agile Vision 属性にマップする方法

1. JIRA で[管理]をクリックします。
[管理]ページが表示されます。
2. [CA Agile Vision]メニューから[プロジェクト マッピング]をクリックします。
マップされたプロジェクトが一覧表示された[CA Agile Vision JIRA プロジェクト マッピング]ページが表示されます。
3. マッピング テーブルの[操作]列で、そのために属性をマップする Agile Vision 製品および JIRA プロジェクトの隣の[属性マッピング]をクリックします。
デフォルトではマップされる属性が表示された[CA Agile Vision JIRA プロジェクト属性マッピング]ページが表示されます。
4. [編集]をクリックして、残りの属性をマップします。
[プロジェクト属性マッピング]ページで、Agile Vision 属性および JIRA フィールドのリストがリフレッシュされます。
5. 各 Agile Vision 属性について、ドロップダウンから一致する JIRA フィールドを選択し、[保存]をクリックします。

以下のテーブルで、デフォルトでマップされる属性について説明します。

Agile Vision 属性

利用可能な JIRA 問題フィールド

Agile Vision 属性	利用可能な JIRA 問題フィールド
タイトル	要約
ステータス	ステータス
優先度	優先度
予期される結果	なし
回避策	なし
実際の結果	なし
影響を受けるリリース	影響を受けるバージョン

JIRA 属性値の Agile Vision 属性値へのマップ

複数の値が属性に利用可能な場合、属性をマップした後に、JIRA 属性値を Agile Vision 属性値にマップできます。

以下では、同期ジョブの実行後に、Agile Vision での属性値の変更が JIRA にどのように反映されるかについて説明します。

- Agile Vision で属性値の名前が変更されると、名前が変更された値が JIRA に表示されます。
- Agile Vision で属性値が削除されると、削除された値は JIRA に表示されません。以前マップされた値も表示されません。マップされた値がなかったために指定されたレコードが同期できなかったことを示すメッセージが、同期ジョブ ログファイルに表示されます。

JIRA 属性値を Agile Vision 属性値にマップする方法

1. [Agile Vision 属性マッピング] ページ上で、値をマップする Agile Vision 属性および JIRA フィールドの隣の [値のマッピング] をクリックのします。
[CA Agile Vision JIRA プロジェクト属性値マッピング] ページが表示されます。
2. 各 Agile Vision 属性値について、ドロップダウンから一致する JIRA フィールド値を選択し、[保存] をクリックします。

以下のテーブルに、デフォルトでマップされる属性を表示します。

Agile Vision 属性値	JIRA フィールド値
ステータス:	ステータス:
<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画済み ■ 進行中 ■ 完了 ■ クローズ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オープン ■ 進行中 ■ 再開済み ■ 解決済み ■ クローズ

Agile Vision 属性値	JIRA フィールド値
優先度: <ul style="list-style-type: none">■ 非常に高い■ 高■ 中■ 低■ 非常に低い■ 非優先	優先度: <ul style="list-style-type: none">■ ブロック■ 重要■ メジャー■ マイナー■ わずか■ なし
影響を受けるリリース: 選択した製品の影響を受けるリリース。	影響を受けるバージョン: JIRA 管理者によって定義される影響を受けるバージョン
修正リリース: 選択した製品の修正リリース。	修正バージョン: JIRA 管理者によって定義される修正バージョン

Agile Vision の問題インポート条件の設定

JIRA 管理者として、フィルタ条件を設定して、Agile Vision へインポートする問題のタイプを定義できます。この条件に基づいて、JIRA の問題は Agile Vision バックログに追加されます。

たとえば、フィルタ条件として以下を設定した場合：

- 影響を受けるバージョン：リリース A
- 修正バージョン：リリース B およびリリース C

同期ジョブの実行後、リリース A に影響する JIRA 問題およびリリース B または C に影響するその修正のみが Agile Vision にインポートされます。

Agile Vision のバグ インポート条件の設定方法

1. JIRA の[CA Agile Vision JIRA プロジェクト マッピング]ページ上で、マップされた JIRA プロジェクトの隣の[インポート条件]をクリックします。
[CA Agile Vision JIRA プロジェクトのインポート条件]ページが表示されます。
2. 以下のフィルタ条件から選択します。

ステータス

Agile Vision へインポートする問題ステータスを定義します。

優先度

Agile Vision へインポートする問題優先度を定義します。

影響を受けるバージョン

Agile Vision へインポートする問題によって影響を受ける JIRA プロジェクトのバージョンを定義します。

修正バージョン

Agile Vision へインポートする修正によって影響を受ける JIRA プロジェクトのバージョンを定義します。

3. [保存]をクリックします。

JIRA および Agile Vision 間の問題の同期

JIRA で事前定義済みの以下の情報に基づいて、JIRA と Agile Vision の間で新規問題と既存の問題の変更を同期できます。

- Agile Vision および JIRA プロジェクト、属性、および値マッピング。
- 問題同期サービス スケジュール

JIRA で問題を削除すると、同期ジョブの実行後、その問題は Agile Vision から削除されます。また、その逆の場合も同様です。

さらに、Agile Vision および JIRA 間で問題の担当者を同期することもできます。Agile Vision 内でリンクされた問題の作成時または更新時、担当者を選択すると、JIRA 内の [Issue Navigator] ページ上の [Assignee] 列に同じ担当者が反映されます。Agile Vision 内で問題に関して担当者が行う更新または作成したコメントのすべてが、JIRA の問題の詳細に反映されます。また、その逆の場合も同様です。担当者の電子メール アドレスを使用して、Agile Vision および JIRA の間で同じ担当者が同期されます。

JIRA と Agile Vision の間の問題の同期

JIRA で事前定義済みの以下の情報に基づいて、JIRA と Agile Vision の間で新規問題と既存の問題の変更を同期できます。

- Agile Vision および JIRA プロジェクト、属性、および値マッピング。
- 問題同期サービス スケジュール

JIRA で問題を削除すると、同期ジョブの実行後、その問題は Agile Vision から削除されます。また、その逆の場合も同様です。

問題を JIRA から Agile Vision に同期する方法

1. JIRA で、Agile Vision 製品にマップされるプロジェクト用の問題を作成します。
2. JIRA で、問題同期サービス ジョブをただちに、または事前定義された間隔で実行します。
3. Agile Vision のバックログ ページで、JIRA プロジェクトにマップされた製品をフィルタリングして抽出します。

JIRA の問題は、バックログにリスト表示されます。今この問題を変更するか、マップされた製品に関連付けられたユーザ ストーリーからこの問題にリンクします。

詳細については、「*Agile Vision ユーザガイド*」を参照してください。

問題を Agile Vision から JIRA に同期する方法

1. Agile Vision で、JIRA プロジェクトにマップされた製品の問題を作成します。
2. JIRA で、問題同期サービス ジョブをただちに、または事前定義された間隔で実行します。
3. JIRA で、Agile Vision 製品にマップされている JIRA プロジェクトをフィルタリングして抽出し、問題を見つけます。

JIRA の Agile Vision との統合の無効化

Agile Vision との接続をすべて無効にするには、スケジュール済みの問題同期サービスジョブを削除します。ジョブを削除すると、Agile Vision とのすべての問題の同期が無効になります。

スケジュール済みの問題同期サービスジョブの削除後に、[CA Agile Vision]メニューから[同期ステータス]を選択して、ジョブを手動で実行できます。

スケジュール済みの問題同期サービスジョブを削除する方法

1. JIRA で[管理]をクリックします。
[管理]ページが表示されます。
2. [システム]メニューから[サービス]をクリックします。
[サービス]リストページが表示されます。
3. 問題同期サービスジョブの隣の[削除]リンクをクリックします。

第 5 章: Quality Center と Agile Vision の統合

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Quality Center と Agile Vision の統合方法 \(P. 47\)](#)

[Quality Center テストケースの Agile Vision への統合 \(P. 54\)](#)

Quality Center と Agile Vision の統合方法

HP Quality Center を Agile Vision と統合するには、以下の手順を完了します。

- [HP Quality Center 用の Quality Center プラグインをインストールします。](#)
(P. 48)
- [Agile Vision 用の Quality Center プラグインの設定](#) (P. 48)
- Agile Vision の有効化による Quality Center との統合
詳細については、Agile Vision のオンライン ヘルプを参照してください。

Quality Center プラグインのセットアップの前提条件

Quality Center プラグイン パッケージをインストールする前に、以下のセットアップを行っていることを確認します。

- HP Quality Center のバージョン 10.00 がインストールされている
- Agile Vision Winter 2010 Edition が利用可能であり、実行されている
- Microsoft .Net Framework バージョン 2.0 以降がインストールされている
- HP Quality Center からダウンロードされた Open Test Architecture Client

注: Quality Center プラグイン パッケージのインストール先に予定している同じシステム上に、OTA Client をインストールします。プラグインのインストール後、そのプラグインの実行にこのクライアントが必要です。

Quality Center プラグインは、Quality Center のインストール先と同じシステム、または別のシステムにインストールできます。

Quality Center プラグイン パッケージのインストール

Quality Center プラグイン パッケージをインストールする方法

1. Quality Center プラグインのインストール先として予定しているシステムにログインします。
2. support.ca.com から利用可能な GEN01104433M.zip ファイルをダウンロードし解凍します。
3. HP Quality Center Setup_20101223_01(x86)_A1.msi ファイル用の CA Agile Vision プラグインをダブルクリックします。

HP Quality Center 用 CA Agile Vision プラグインのセットアップ インストール ウィザードが開きます。

4. インストールフォルダのパスを指定し、ウィザードの手順に従って、プラグインをインストールします。

インストールが完了すると、確認メッセージが表示されます。

Agile Vision 用の Quality Center プラグインの設定

Quality Center プラグインのインストール後、Quality Center プラグインを設定して Agile Vision と通信します。プラグインの設定後、Agile Vision への接続をテストします。接続が成功すると、Quality Center および Agile Vision のパスワードは暗号化され、設定ファイルに格納されます。これらのパスワードを随時変更するには、TestConnection.bat ファイルを使用します。このツールはパスワードを暗号化し、暗号化されたパスワードを格納します。

Quality Center プラグインの設定方法

1. Quality Center プラグインのインストール先フォルダで、AvQcIntegration.exe.config ファイルを見つけます。
2. この設定ファイルをテキスト エディタで開きます。
3. Quality Center の以下のパラメータを設定します。

Quality Center User Name

Quality Center アカウントにログインするための管理者ユーザ名を定義します。管理者は、Quality Center 内の複数のプロジェクトに対するアクセス権を持っている必要があります。

Quality Center Password

Quality Center アカウントにログインするための暗号化された管理者パスワードを表示します。

Quality Center URL

Quality Center の URL を表示します。

例: `http://myqa1234:8088/qcbin`

Quality Center Database Type

Quality Center によって使用されるデータベースのタイプ (MSSQL または Oracle) を定義します。

4. Agile Vision の以下のパラメータを設定します。

Agile Vision ユーザ名

Agile Vision にログインするための管理者ユーザ名を定義します。管理者は、Agile Vision 内の複数のプロジェクトに対するアクセス権を持っている必要があります。

Agile Vision パスワード

Agile Vision にログインするための暗号化された管理者パスワードを表示します。

Agile Vision セキュリティトークン

Agile Vision サーバのセキュリティトークンを定義します。

Agile Vision パッケージ プレフィクス

Agile Vision のパッケージプレフィクスを定義します。Agile Vision の以降のバージョンにアップグレードしていない場合は、デフォルトのプレフィクス値を変更しないでください。

ソース: Salesforce.com の [Installed Packages] ページの [Namespace Prefix] フィールド値。

値: `ca_agile`

プロキシ URL

プロキシ認証用のプロキシサーバ URL を定義します。この値が必要になるのは、プロキシサーバを使用してインターネットにアクセスしている場合のみです。

プロキシドメイン

プロキシ認証用のプロキシサーバドメインを定義します。この値が必要になるのは、プロキシサーバを使用してインターネットにアクセスしている場合のみです。

プロキシユーザ名

プロキシ認証用のプロキシサーバユーザ名を定義します。この値が必要になるのは、プロキシサーバを使用してインターネットにアクセスしている場合のみです。

プロキシパスワード

プロキシ認証用のプロキシサーバパスワードを定義します。この値が必要になるのは、プロキシサーバを使用してインターネットにアクセスしている場合のみです。

同期ジョブスケジューリング戦略

Windows で制御されているようにプラグイン スケジューリングを定義します。通常はこの値を変更する必要はありません。

5. **Quality Center** プラグイン インストール フォルダで、**TestConnection.bat** ファイルをダブルクリックして、**Quality Center** と **Agile Vision** の間の接続をテストします。

Quality Center および **Agile Vision** のパスワードの入力を促すプロンプトが表示されます。入力するパスワードは暗号化され、設定ファイルに格納されます。

スケジュールされた Windows タスクとして実行するプラグインの設定

Quality Center プラグインをインストールし、Agile Vision 用に設定した後に、スケジュールされた Windows タスク (たとえば、毎日、毎週、毎月実行する) として実行するプラグインをセットアップできます。スケジュールされたタスクが実行される場合は常に、HP Quality Center 用 Agile Vision プラグインのコンソールが開き、バックグラウンド同期サービスを開始します。このバックグラウンド サービスによって、Quality Center プロジェクトおよびテスト ケース データが Agile Vision に転送されます。タスクが完了すると、コンソールは自動的に閉じられます。

Quality Center プラグインをスケジュールされた Windows タスクとして設定するには、Windows で定期的に行うプログラムとして、AvQcIntegration.exe を選択します。この Windows タスクのスケジューリング パラメータは、タスクの作成後、随時変更できます。毎日 2 回以上データを同期するには、[反復タスク] オプションを使用します。

注: Quality Center から Agile Vision へのデータの転送をすべて停止するには、スケジュールされた Windows タスクを無効にします。

スケジュールされたタスクの作成の詳細については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

スケジュールされた Windows タスクとして実行する Quality Center プラグインの設定方法

1. デスクトップで、[スタート]メニューをクリックし、[設定]メニューから[コントロール パネル]を選択します。
[コントロール パネル]ウィンドウが開きます。
2. [タスク]を選択します。
[タスク]ウィンドウが表示されます。
3. [スケジュールされたタスクの追加]アイコンをダブルクリックします。
タスク ウィザードが表示されます。
4. このウィザードで[次へ]をクリックし、Windows で実行するプログラムとして AvQcIntegration.exe を選択します。
5. ウィザードの指示に従って、以下を指定します。
 - タスクの名前
 - タスク実行のスケジュール
 - タスクの開始日時

- タスクをスケジュールするユーザのユーザ名およびパスワード
6. [終了]をクリックします。

Quality Center プラグインのサンプル設定ファイル

Quality Center および Agile Vision の認証情報の値が含まれる設定ファイルの例を以下に示します。

```
<setting name="qualityCenter_userName" serializeAs="String" >
  <value>qualityCenter_userName</value>
</setting>
<setting name="qualityCenter_password" serializeAs="String">
  <value>qualityCenter_password</value>
</setting>
<setting name="qualityCenter_url" serializeAs="String">
  <value>http(s)://hostname(IP):port/qcbin</value>
</setting>
<setting name="qualityCenter_databaseType" serializeAs="String">
  <value>MSSQL or Oracle</value>
</setting>
<setting name="agileVision_userName" serializeAs="String">
  <value>agileVision_userName</value>
</setting>
<setting name="agileVision_password" serializeAs="String">
  <value>agileVision_password</value>
</setting>
<setting name="agileVision_securityToken" serializeAs="String">
  <value>agileVision_securityToken</value>
</setting>
<setting name="agileVision_packagePrefix" serializeAs="String">
  <value>agileVision_packagePrefix</value>
</setting>
<setting name="proxy_url" serializeAs="String">
  <value>proxy_url</value>
</setting>
<setting name="proxy_domain" serializeAs="String">
  <value>proxy_domain</value>
</setting>
<setting name="proxy_userName" serializeAs="String">
  <value>proxy_userName</value>
</setting>
<setting name="proxy_password" serializeAs="String">
  <value>proxy_password</value>
  <setting name="syncJob_schedulingStrategy" serializeAs="String">
    <value>2</value>
  </setting>
</setting>
/setting>
```

Quality Center テスト ケースの Agile Vision への統合

同期ジョブは、スケジュールされた Windows タスクとして実行する Quality Center プラグインのセットアップ時に、ユーザが定義した一定の間隔で実行されます。このジョブによって、Quality Center のすべてのプロジェクトが Agile Vision に同期されます。

Agile Vision では、これらのプロジェクトを Agile Vision 製品にマップできます。これらのプロジェクト マッピングに基づいて、同期ジョブは以下のテスト ケース情報を Quality Center から Agile Vision に同期します。

- 最新のステータス
- テスト実行結果
- テスト手順

最初の同期中に、既存のプロジェクト、フォルダおよびテスト ケースはすべて Quality Center から Agile Vision に同期されます。それ以降の同期では、これらのプロジェクト、フォルダおよびテスト ケースへの変更のみが同期されます。

Agile Vision で、ユーザ ストーリーからこれらのテスト ケースをリンクできますが、テスト ケースの編集はできません。

Quality Center で Agile Vision と同期されているプロジェクトを削除すると、同期ジョブの実行後、そのプロジェクトは Agile Vision でマッピング リストから削除されます。このプロジェクトのデータは同期されなくなります。

Quality Center でテスト ケースを削除すると、次の同期ジョブの実行後、そのテスト ケースが Agile Vision から削除されます。Agile Vision でユーザ ストーリーからテスト ケースを削除すると、そのテスト ケース自体は Agile Vision または Quality Center から削除されません。テスト ケースとユーザ ストーリーの間に関連のみがなくなります。

Quality Center テスト ケースの Agile Vision への統合

1. Quality Center で、Agile Vision にマップされるプロジェクトにログインします。
2. テスト ケースを作成および実行します。
3. Quality Center プラグインを実行します。

テスト ケースフォルダは Agile Vision へインポートされます。

付録 A: サードパーティライセンス契約

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Dojo Toolkit 1.3.1](#) (P. 56)

[Ext JS - JavaScript Library](#) (P. 57)

[JSON 1.0](#) (P. 58)

[jQuery 1.3.2](#) (P. 59)

Dojo Toolkit 1.3.1

This product includes Dojo Toolkit 1.3.1 software, which CA has elected to distribute in accordance with the following terms:

Copyright (c) 2005-2009, The Dojo Foundation

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Dojo Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Ext JS - JavaScript Library

Ext JS - JavaScript Library

Copyright (c) 2006-2010, Ext JS, Inc.

All rights reserved.

licensing@extjs.com

<http://extjs.com/license>

Open Source License

Ext is licensed under the terms of the Open Source GPL 3.0 license.

<http://www.gnu.org/licenses/gpl.html>

There are several FLOSS exceptions available for use with this release for open source applications that are distributed under a license other than the GPL.

* Open Source License Exception for Applications

<http://extjs.com/products/floss-exception.php>

* Open Source License Exception for Development

<http://extjs.com/products/ux-exception.php>

Commercial License

This is the appropriate option if you are creating proprietary applications and you are not prepared to distribute and share the source code of your application under the GPL v3 license. Please visit <http://extjs.com/license> for more details.

OEM / Reseller License

For more details, please visit: <http://extjs.com/license>.

--

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

JSON 1.0

This product includes JSON 1.0 software, which CA distributes in accordance with the following terms:

Copyright (c) 2002 JSON.org

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

The Software shall be used for Good, not Evil.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

jquery 1.3.2

This product includes jquery 1.3.2 software, which CA has elected to distribute in accordance with the following terms:

Copyright (c) 2009 John Resig, <http://jquery.com/>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.